



歯周病（歯肉炎と歯周炎の総称）とは？

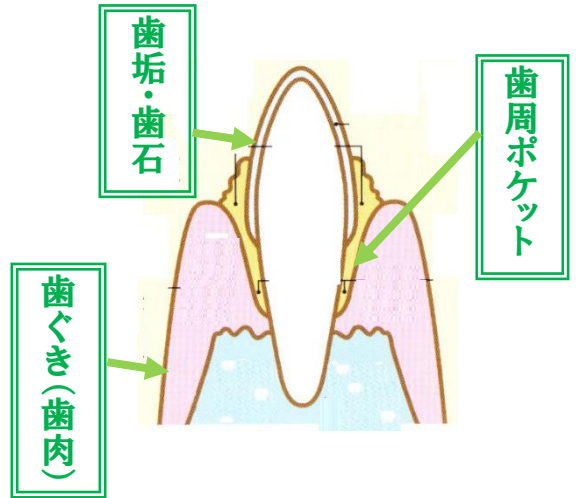
人間と同じように犬にも歯周病があります。
歯肉炎とは食べかすや細菌など（歯垢）が、歯と歯肉（歯ぐき）の間（歯肉ポケット）にたまり、歯肉が炎症を起こしたものです。

進行すると…

歯を支えている組織が壊され、歯肉ポケットは、どんどん深くなって細菌の繁殖が進み、歯周ポケットと呼ばれる状態になります。

こうなると…

歯肉以外の歯周組織にまで炎症が及んで歯周炎となります。
歯周組織の炎症がひどくなると、歯を支えることができずに歯が抜けていきます。
細菌が繁殖すると歯根周囲の骨まで溶け出し、口の中や外に穴が開いたり、物を食べたときに顎の骨が折れることもあります。



歯周病が原因で歯根周囲の組織が破壊され、目の下に穴が開いた状態



顎の骨が折れたようす



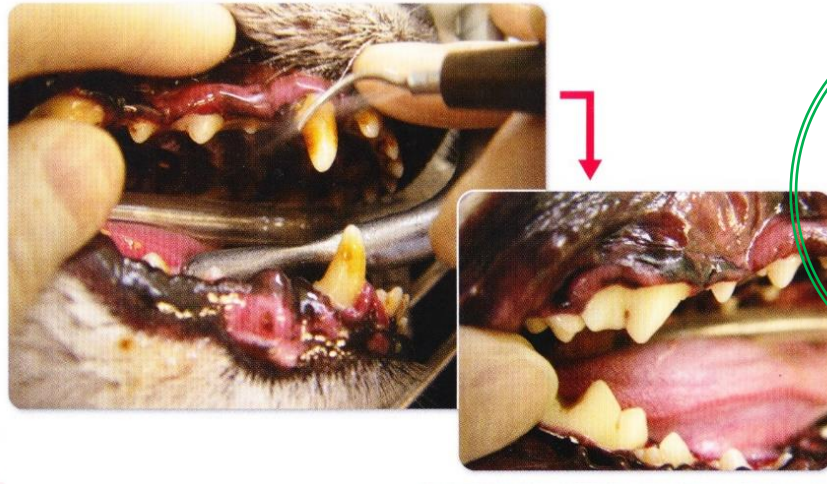
歯周病を放置すると肝臓や腎臓、心臓などの内臓にも影響を及ぼし、様々な全身病の原因にもなります。



治療

歯周病の治療ではスケーラーと呼ばれる歯科用器具を使って、歯垢や歯垢が石灰化して固まった歯石を取り除いたり、歯周ポケットの中を洗浄してきれいにします。
また症状が進んでしまった場合は抜歯をします。

超音波スクレーラーを使って
歯石を取り除
きます



スクレーリング
をして歯垢や
歯石が取り除
かれ、きれい
になった歯

スクレーリングを始めとした歯周病の治療は全身麻酔をかけて行いますので、できれば治療が必要となる前に歯周病を防ぐことが大切です。

歯周病の予防に際して最も効果的なのは人間同様、歯磨きをすることです。歯磨きと並行してデンタルグッズも予防に役立ちます。

歯周病は予防することが最も重要ですが、もしかかってしまったら早期発見・早期治療が大切です。ワンちゃんと触れ合いながら口の中をこまめにチェックする習慣をつけましょう。

下の歯周病が疑われる症状リスト表をチェックして歯周病の早期発見に努めましょう。

- 歯が汚れていたり、黄ばんでいる
- 歯垢や歯石が見られる
- 歯肉（歯ぐき）が赤みや紫色を帯びていたり、腫れ、出血、膿が見られる
- よだれが多くなった
- 口の周りの汚れが目立つようになった
- 口臭がする
- 口の周りを前足で気にしていることが多い
- 口を床や家具などにこすりつけていることが多い
- 頭をよく振っている
- 口の周りを触ろうとすると嫌がる
- 柔らかい食べ物ばかりを好み、硬いものは食べようとしない
- 食事中に口からポロポロと食べ物をこぼすことが多い



- 片側の歯で物を噛んでいることが多い
- 食事中、または何かを噛んでいる最中、急に妙な声を出すことがある
- 食べ物を口の中に入れても、すぐに出してしまう
- 食欲はありそうな割に、あまり食べようとしない
- 片側の目に目ヤニが出ていたり、目が充血している
- 舌で鼻を舐めたりするしぐさが多くなった
- くしゃみ、鼻汁、鼻からの出血などがときどき見られる
- 頬や顎が腫れている、または穴が開いている

tooth



古川獣医師のコラム

最近歯石が大量にたまって歯周病から酷い口臭で部屋の中が臭くてたまらないという話はあまり聞かなくなりましたが、やはり歯磨きの習慣は子供のころからでないとなかなか難しいものです。

毎日やるのが基本ですが、一日おきでもやることができれば歯石の付着量かなり軽減されますので頑張って歯みがきしてください。